

♪ シニア便り ♪

定期演奏会の成功に向けて

第18回定期演奏会・実行委員長

松本 良一

一筆吹奏

『シニア吹奏楽団リスタート』

ホルン

池内美由紀

『練習会場の変遷』

初代事務局長

古川 亨

『練習場の思い出』

菊田 貴子

『練習場の思い出』

葛西 幹也

『練習場の思い出』

吉田 和夫

もっともっと・楽団創り

『良い演奏をするために』

副団長・常任指揮者

中村 暁生

事務局からのお知らせ



第17号 (2011年3月発行)

発行 北海道シニア吹奏楽団・事務局

編集 シニア便り・編集部

定期演奏会の成功に向けて

第十八回定期演奏会実行委員長

松本 良一

平成二三年度第十八回定期演奏会実行委員は、昨年の総会で決定したフルート・オーボエパートの担当となりました。メンバーは、高橋章子さん（副実行委員長）、杉中剛さん、田中綾子さん、村山幸恵さん、蓬田義信さん（現在は仮入団中）、吉田和夫さん（大御所）、伊藤英明さん（次年度実行委員）、松本良一（実行委員長）で、顧問として中村暁生先生、内田進二さん、菊田實子さんも加わっていた。石井邦紀さん、鈴木隆起さん（前年度実行委員長）にも適宜ご出席いただいております。老若男女混成のメンバー構成です。演奏曲は、皆様のご意見をお伺いして試奏を重ね、準備を進めている段階ですが、ここでもう一度、基本的なコンセプト等これまでの経緯をご紹介しますと思います。

一・演奏会のテーマについて

今回の演奏会は、テーマを特に設定しません。実行委員会で確認した事項は、特定の表題に「テーマを絞らない」ということです。前回は「宇

宙」という、立派で壮大なテーマだったので、今回は、強いて名づける「地球」「人間」といったテーマが適当なのかも知れませんが、敢えてテーマを決めない演奏会にしたいと考えた訳です（多分に実行委員長の独断思考ですが……）。しかし何と言つても今回の演奏曲目は、時代・民族を超えた人間としての「喜怒哀楽、尊厳、憧憬」といった生々しい感情が満ち溢れている素晴らしい内容だと思います。

二・ステージの構成について

ステージは、これまで培ってきたシニア吹奏楽団としての経験を大切にして、昨年と同様、三つのステージ構成を基本とします。

・第一ステージ

吹奏楽オリジナル・クラシック系の曲目で、「威風堂々第一番」「ペルシャの市場にて」「スラブ舞曲」「エグモント序曲」に決まりました。

・第二ステージ

昨年と同様に、旭小学校の単独演奏と合同演奏（旭小学校＋シニア吹奏楽団）をメインとします。

昨年お願いした旭小学校さんには今回も出演を依頼します。

また、今回はアンサンブル演奏も企画しています。新たな試みのアンサンブル演奏は、サクソフォーン・パ

ートとクラリネット・パートに担当していたとき、編曲等の準備を進めているところでした。

・第三ステージ

ノリの良いリズムミカルな曲を中心にします。「ブラジル」「ブルー・タング」「バンドのためのピギン」はほぼ決定ですが、あと数曲の選定に試奏を続けているところです。

その他には、恒例の「曲当てクイズ」も行います。

アンコールには「カヴァレリア・ルステイカーナ」と、他一曲（選曲中）を考えております。

三・今回の特記事項について

今回の定期演奏会は、決して無理をせずに開催したいということがモットーです（演奏面でも、予算面でも）。演奏曲は主に過去に演奏した曲の中から選考し、資金面では、前年度実行委員・古川亭さんのご尽力により、（財）ヤマハ音楽振興会より、「ヤマハ音楽支援制度・地域音楽活動支援金」を頂けることとなりました。指揮者の中村先生はじめ、シニア吹奏楽団の音楽的レベルが評価された結果だと、お世話になった皆様に、深くお礼申し上げます。

四・今後の予定

今年の定期演奏会開催日は、昨年

よりほぼ一か月早い、十月二日（日）です。実行委員会としまして、全てを前倒しで準備を進めておりますが何分、不慣れな者たちばかりですので、至らない点多々あるかと思っております。お客様に、十分楽しんで満足していただける演奏会を目指して、実行委員一同頑張りたいと思っております。叱咤激励ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



一筆吹奏

『シニア吹奏楽団リスタート』

池内 美由紀

皆さんこんにちは。ホルン・パートの池内美由紀です。私は、七年前まで北海道シニア吹奏楽団に在籍しており、同団で出会った夫と結婚、その後転勤で札幌を離れたため一度退団しましたが、昨年十二月に再入

団させて頂きました。
現在は、五歳と九か月の女兒二人の母となり育児に奮闘の日々を過しておいでです。

再入団当初は、幼い子供達をおいでに参加に不安もありましたが、今ではこの二週に一度の練習時間は、日頃の家事・育児から少しだけ解放されるとても貴重なリフレッシュ時間となっていて、練習日が待ち遠しくらいです。

合奏では、中村先生の丁寧で分かりやすいご指導を始め、笑いを交えながらの和やかな温かい団の雰囲気は、昔と全く変わらず、初回からすっかり溶け込んで、毎回居心地良く皆さんの演奏を楽しませて頂いています。

懐かしい皆さんとシニア吹奏楽団で再会できたこと。また、新たにお会いした方々と一緒に吹奏楽を楽しむこと。母親になってもホルンを吹き続けられること。どれも本当に嬉しく幸せなことだと感じています。しばらくは、子供達の世話のための遅刻や早退で、ホルン・パートの方々や団員の皆様にご迷惑をおかけすることになり申し訳ありませんが、北海道シニア吹奏楽団の一員として皆さんと楽しい音楽のひとときを過ごせたら…。と思っております。
今後ともどうぞ宜しくお願いします。

『練習会場の変遷』

初代事務局長 古川 亨

平成五年六月二十九日(日)、中央区のヤマハホールに於いて当団の設立総会が行われ、二週後の日曜日から「かでの2・7」レクリエーション研修室(十七回定演でチューニングを行った鏡のある部屋)で、第二、四日曜日の午後五時〜九時の時間で練習を開始いたしました。

第一回練習には、林団長、中村先生(当時はホルン)は勿論、木管(林先生のレッスンを受けられた方々)を中心に、故前谷さん、渡辺順三さんなど北海学園大学で吹奏楽を経験された方々数名が練習会場に駆けつけ、林団長のピアノ伴奏で音出しが始まりました。練習曲は、「荒城の月」「ふるさと」等、譜面は団長自ら手書きで用意して下さいました。

当時は、特に金管楽器のパートが少なく、どうなるのか?不思議に思いつながりも、とにかく練習だけは欠かさずに参加させてもらいました。ここには楽器庫が無く、パーカッションの前谷さんはスネアドラムを抱えて参加でした。後に、当時道庁職員だった、吉田和夫氏のご尽力により、練習室隣の部屋に、譜面台とドラム程度を保管させて置くことが可能になり、大変便利になりました。

練習を始めて半年程が経過した頃、林団長から「定期演奏会をやるから会場を探そうに」とのお達しがありませんでした。パートメンバーも揃いで、練習に来るメンバーも少ない状況の中「団長はいつたい何を考えているのか?」と首をかしげながらも、とりあえず当時のメンバーの中で一番年下の私が会場探しを始めました。運良く、「札幌市教育文化会館」小ホールの空きを確認し、団長と協議の結果、平成六年九月四日(日)午後六時、第一回定期演奏会の開催が決まりました。しかし、月二回の練習だけでは満足できる演奏にはならず、臨時練習も必要になりました。

しかし「かでの」の研修室はダンスや体操など人気が高く中々予約することが出来ず、演奏会直前の集中練習には私が勤務する札幌市立中央小学校の一部を内緒で使用したり、演奏会当日午前のリハーサルは、北海道厚生年金会館大ホールも使いながら、薄氷を踏む状況でした。

打楽器類が増えてくるとどうしても楽器保管庫が必要になり、中村先生の口添えで、第4回定期演奏会で共演した「V・Aドリルカンパニー」の練習の空き時間を、当団の練習に使わせて頂くことになり、楽器保管も可能と云うことでJR苗穂駅裏の「日鉄体育館」に移ることになりました。

ここは建物古く冬場は窓の隙間から雪が吹き込み、団専用の灯油ストーブを真ん中に置きながらの練習でした。

日鉄体育館での練習は平成十年三月まで続きましたが、再開発により体育館の閉館を告げられたのです。

楽団員全員で会場探しをしていたところ、クラリネットの内田さんが「オークラホール」を見つけてくれました。「オークラホール」には、平成十年四月初旬に転居しました。

それ以来、十三年もの長い期間、利用していましたが、最後の練習が終った時には一抹の寂しさがこみ上げてきました。楽団の充実と共に歩み、そして色々な無理も受け入れてもらったホールに感謝しております。

又、新しい「NTTセミナーセンター」において心機一転練習に励んで行くこうと思っております。



『練習場の思い出』

菊田貴子

私がシニアの練習に参加させて頂いたのは、第一回定期演奏会の後だったと思います。「かでる2・7」のリハーサル室でした。床は板張りで防音、壁は鏡貼り、バレエのレッスンバーまで備え付けてあるとても立派な部屋でした。場所が札幌駅近くで通いやすく、設備もすばらしく快適でした。しかし、会場の確保が困難だったという事で、事務局は大変苦勞なさったのではないかと思います。

その次の練習場は日鉄体育館でした。体育館の二階にあった部屋で、ある冬の日に窓が閉じなくて寒い思いをしながら練習をした記憶があります。場所は東苗穂辺りだったと思いますが、JRで通うには少し不便な場所でした。

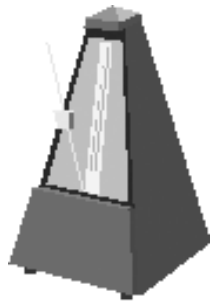
次の練習場がオークラホールです。場所も広さも申し分なく、冷暖房完備で楽器庫もあり、実行委員会を開くにも「ガスト」がすぐ近くでしたし、コンビニも近く、とても便利で快適でした。ただひとつ、パークアションの運搬がステージ裏の狭い階段を通るのが大変だったと思います。一番長く居た練習場です。

現在のNTTセミナーセンターの

練習場はまだ数回しか練習していませんが、そっかしい私は床に敷いてあるブルーシートにつまずいてコケないかが心配です。とても広くパークアションの運搬がスムーズなのは嬉しいです。

普段電車に乗る機会が無いので、電車を通うのものんびりしていいものです。

今回、このコーナーの原稿の執筆依頼を受け、今までの練習場を思い出して、いろんな映像が頭の中に浮かんできました。NTTセミナーセンターではどんな映像が印象に残るのでしょうか？（ブルーシートでコケた映像でない事を祈る……）



『練習場の思い出』

葛西幹也

オークラホールでの思い出と云う事ですが、思い起こせば六年位前になります。

私は当時、別のある団体に所属していました。その団体の楽器保管場

所がオークラホールの五階にありまして、練習の日に楽器を取りに行つた時、エレベーターで五階に上ると音楽が聞こえてきたのでした。

ホールに入ってみると吹奏楽団が練習をしていたところだったので。

演奏していた曲は確か「正露丸」のコーシャルソングだったと思います。「面白い曲をやっているな」、「楽しそう楽団だな」と、その時感じました。今思えば、それが北海道シニア吹奏楽団だったので。

その後、縁があつて入団させて頂きまして、楽団の皆様方には大変感謝しております。経験豊富な方々ばかりの中に、私の様な経験も浅く、音楽的センスもない者が入つても良かったのかなと思つた事もありましたが、とにかく私は音楽大好き人間です。これからもずっと続けていきたいと思ひます。

『練習場の思い出』

吉田和夫

私がフルートで入団した頃の練習場は「かでる2・7」のリハーサル室であつた。メンバーは十人そこそこと記憶している。この練習場の確保は毎月申込み方式で、初代事務局

長の古川さんの御苦勞があつたことと思つている。幸い、「かでる2・7」に私の知人が勤務していたことからドラムや小楽器の保管に倉庫の隅を借りることができた。

何とかして固定した練習場を！との思いから、中村副団長の御尽力で、日鉄体育館で練習していた体操クラブから又借り方式で体育館の部屋を使用することとなった。楽器保管場所もあり、駐車場も利用できるなど安定した練習環境が整つた。

楽器庫にある楽譜や譜面台の収納棚は、当時、林団長が苗穂方面の某所の篤志面接員の職に在つたことから、その技術集団に特注した貴重なものである。また、ティンパニの収納棚は前事務局長の渡辺さんの設計により作成されたものである。しかし、事情があつてこの練習場からも移転せざるを得なくなつた。

次の大蔵ホールは、団長がホール関係者と旧知であつたことから、楽器保管庫付きで借りることとなり、昨年末まで続いていた。

現在の練習場は、音響面で？であるものの、楽器倉庫付き、駐車場付きの恵まれた条件で使用することとなった。これも、現事務局長の柿岡さんや鈴木さんの御苦勞によることである。

これまで、練習場の確保に当た

れた、団長、副団長、歴代事務局長の古川さん、故佐藤さん、渡辺さん、柿岡さんや鈴木さんなど多くの方々御尽力、御苦労に対し、心から敬意と感謝を申し上げますところで。

個人的な話になるが、冬の寒さに弱い私は、大蔵ホールが遠方であることと体力を理由に冬場は「冬眠」していたが、現在の練習場が我家から比較的近距离になってしまい「冬眠」は許されず、真面目に通わなければならぬと肝に命じているところである。



もっともっと・楽団創り

『良い演奏をするために』

副団長・常任指揮者

中村 暁生

前々号で「音楽とは何か」についての一般論を述べましたが、今回は

作品（楽譜）を実際に音にして聴く人に感動を与えるためにプレーヤーは具体的に何をしたら良いかについて書きます。

なお、このことは永年音楽にかかわってきた方々に対しては「釈迦に説法」になると思いますがお許しください。

一、良い音を作ろう

良い音をたくさん聴いてよい音のイメージを持ちながら正しい呼吸法とアンブッシュャーでたくさん吹くこと（打楽器は基本打法を繰り返し叩くこと）。これ以外に良い音を作る方法はありません。いろいろと制約はあると思いますが出来るだけたくさん吹いてください。それによって豊かな響きを持った良い音を獲得できます。年齢なんか関係ありません。

二、もっと音を合わせよう

チューナーなどを活用して楽器と自分の癖を攫んで正しい音程を身に付けてください。それと同時に合奏では何時も「音を合わせる」意識を持ってください。多種類の楽器が音を合わせる事によって合奏体の響きは豊かさを増し、メロディはより美しくなり、透明度の高いハーモニーが構築できるのです。極論すれば、音が合えば演奏の半分は出来上がったも同然と言えます。

三、正しいリズム感（音型）で演奏しよう

ティップスやそれぞれの楽器の教則本などを使って、いろいろなテンポの中で基本的な音型を正確に演奏する力を養ってください。そうすることによってバンド全体の演奏の輪郭がはっきりとした、説得力のある音楽になります。

四、出来るだけ多く練習に参加しよう

小人数のアンサンブルから大編成のバンドやオーケストラに至るまで、それぞれの演奏団体には独自の音色や雰囲気があります。でも、それらの音色や雰囲気は一朝一夕で出来るものではなく、いつも同じメンバーが集まって練習を積み重ねることによってのみ作られるのです。

皆様一人ひとりの音がブレンドされ、良いバランスと良く整った表現法とが合致して、それは熟成されていくのです。

世界中の名プレーヤーを集めても短時間では纏りのある演奏団体にはならず、逆にオザワやムーティが振つても百七十年の歴史を持つウィーンフィルの音は変わりません。

何年か前の定演の直前、突然多数のエキストラが現れて音色もバラ

スも一変してしまい途方に暮れた苦い経験を思い出す度に、時間の積み重ねが大切なことを痛感します。

五、付録

楽譜の正確さとあいまいさ

演奏力の基礎を作るための教則本や練習曲をおさらいする時はピッチや音型、リズムの正確さが求められます。この場合は楽譜を正確に奏しなくてはなりません。

一方、基本的に農耕民族である私たち日本人が騎馬民族であるヨーロッパ人を起源とする音楽を演奏する時、歴史や風土や民族の違いを先ず考えなければなりません。

以前、小西さんがスイング奏法についてのリクチャーで「三連の跳ねた形と言っけれど、日本の盆踊りみたいな跳ね方とは全く違う」と言われたこと、石井さんのウイーンナワルツの奏法についての資料を読んでお解かりのとおり、特に踊りの音楽については民族性がハッキリ出るので独特なリズム感を理解することが大切です。また、作曲者は強弱やテンポの微妙な変化、歌い方などの全てを書いているわけではありませんし、書き表すことは不可能です。更に言えば楽譜の中にはそれが作られた背景（歴史、風土、民族）や作曲者の傾向や意図なども含まれています。

そのあいまいな楽譜の裏を読み取って再現するのが演奏です。

よくホテルのロビーなどで自動ピアノの演奏を聞くことがありますが、感心はしても感動することはまずありません。それは「ただ単に楽譜どおりに正確に弾いているだけからなのです。」

六、終わりに

編集部から「もっともっとと楽団創り」と言う題を頂いて、私なりに考えていることの一端を書きました。音楽が好き、楽器を演奏することが大好きという共通の思いで集まっている皆さんと一緒にこれからも、少しずつ表現の幅を広げて、お客様に感動を与えると同時に、私たち自身も充実した時間を共有できる、そんな楽団を創っていきましょう。



事務局からのお知らせ

実行委員会の持ち回りについて

事務局 伊藤 英明

平成二十一年度の総会で、実行委員を団員の皆さんに等しく経験して貰うことで演奏活動の更なる向上を目指そうと、実行委員会をパート毎の持ち回りで担当しようとの案が採択され、同年度からサククス・パートによる実行委員会がスタートしました。

この総会時に採択されたパート順では、クラリネットを二班に分けて順に担当することになっていきましたが、クラリネットの最初に担当する班が、何かと記念行事の多い「創立二〇周年記念演奏会」と重なってしまふことから、昨年九月の役員会で記念行事全てを含めてクラリネット・パート全体で担当して頂くことになりました。

従って、実行委員会の持ち回り順は次の様に変更になります。

- ・平成二十一年度 サククス
- ・平成二十二年度 トランペット
- ・平成二十三年度 フルート・オーボエ
- ・平成二十四年度 ホルン

・平成二十五年度（創立20周年）
クラリネット全体

- ・平成二十六年度 トロンボーン
- ・平成二十七年度 ユーフォニウム
チューバ・パーカッション

うれしいお知らせ

ご出産

去る一月三十一日、トロンボーンの大澤美和さんが二八三〇グラムの元気な女の子をご出産されました。

団員一同、心よりお祝い申し上げます。お子さんを抱いて復帰されることを楽しみにしております。（編）



ご結婚

バリトンサクサスの平野明日香さんが、ご自身の誕生日でもある三月三日にご結婚されました。新しい苗字は「新海」さんのことです。ちなみに、仕事の都合もあって当面は室蘭と札幌に離れての生活になるそうです。これからもシニア吹奏楽団は続けていきたいとのこと。お幸せに！

（編）

編集余録

「シニア便り」の編集を手伝い始めて今号で四回目になりました。大勢の方々には執筆を引き受けてもらい、どうにか発行を続けていきますが、正直云って年三回の発行はきついです。でも、団員の方々のコミュニケーションツールとしてお役に立てば、との思いで始めたことですから、まだまだ続けますよ。皆さん、何か書いて下さい。（伊藤）

今回のシニア便りは、練習場の思いつきについてたくさんの方々から原稿を頂きました。ありがとうございます！シニアの歴史とみなさまの思いを知ることができた号となりました。また、昨年に引き続き、今年もシルバーハイツでの訪問演奏お疲れ様でした！（長土居）

・新しい練習場になり、早2か月。寒気が緩んだとはいえ、まだまだ練習場は寒いですね。この時期は何となく気分がすぐれない事も多いかと。しっかり食べてお風呂に入り自律神経を整えて春に備えて下さいね。（石田）